公衆衛生だより No.6

令和7年5月26日
発行：公衆衛生委員会

公衆衛生委員会では、月に1回程度外部委員より公衆衛生等について有益な情報を提供いただいております。協会職員の皆さまにもお役立ていただける内容が多くあると考え、ご紹介させていただきます。ぜひお読みください。

今回は、２月と４月の公衆衛生委員会でご発表いただいた外部委員の先生方からの情報をご紹介いたします。

ご発表いただいた先生方

大林 航 先生（佐賀県唐津保健福祉事務所 ※令和7年2月当時／伊万里保健福祉事務所／健康福祉部医務課・医療人材政策室）
小倉 憲一 先生（富山県厚生部医務課）

2025年2月13日 公衆衛生委員会

佐賀で取り組む
新たな感染症人材育成事業について

佐賀県 唐津保健福祉事務所・伊万里保健福祉事務所
健康福祉部医務課・医療人材政策室
大林 航

令和７年２月１３日　公衆衛生委員会

佐賀で取り組む新たな感染症人材育成事業について

佐賀県唐津保健福祉事務所・伊万里保健福祉事務所
大林　航

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、あらゆる医療機関、社会福祉施設等において、施設内の感染拡大に対峙することになった。その際、特に、感染症指定医療機関や感染症入院協力医療機関以外の施設で、感染症対策を担う人材の不足が浮き彫りとなった。次のパンデミックに備えるためには、感染症対応力の底上げ、すなわち普段は感染症対策にかかわる機会が少ない施設での、人材育成が急務であると考えられる。

そこで佐賀県では、令和５年に「佐賀県 IHEAT 事務局」を設立した。県内の感染症対策にかかわる人材育成を目指し、医療機関や施設職員を対象とした研修会の開催や、参加の支援を行っている。

また感染症対策にかかわる人材育成の必要性は、保健所にも当てはまる。例えばコロナ対応では、１００人単位の鼻咽頭ぬぐい液を連日採取していたが、５類移行後は、保健所でそのような機会はない。次のパンデミックに備えるためにも、コロナ対応で定着した知識・技能を、風化させずに継承することが重要である。佐賀県 IHEAT 事務局では、保健所職員を対象とした技能継承のための研修会も開催した。

新たな人材育成事業は始まったばかりだが、研修会の参加人数などからすると、手ごたえを感じるところである。佐賀県 IHEAT 事務局が中心となり、感染症対策に強い佐賀県を目指してゆきたい。

令和6年能登半島地震を踏まえた
富山県での東海・北陸ブロックDHEAT協議会
実働訓練について

～保健医療福祉調整本部とDHEAT先遣隊の役割～

2025年4月10日（木）1430-1530
富山県厚生部医務課
小倉憲一

令和７年４月10日

令和６年能登半島地震を踏まえた富山県での東海・北陸ブロック DHEAT 協議会

実働訓練について～保健医療福祉調整本部と DHEAT 先遣隊の役割～

小倉憲一 富山県厚生部医務課

令和６年能登半島地震での富山県保健医療福祉調整本部の設置と富山県 DHEAT の派遣経験を踏まえて、富山県内での地震発生を想定した令和６年度東海・北陸ブロック DHEAT 協議会実働訓練を実施したのでその概要について報告する。

災害規模は呉羽山断層地震を想定し被害の最も大きい富山県射水市で震度６強、富山市と立山町で震度５強とした。発災後、富山県保健医療福祉調整本部を設置し「DHEAT 先遣隊」の活動として県内 DHEAT は発災２日目から、富山県外の東海・北陸ブロック協議会内からの「DHEAT 先遣隊」は発災３日目から被災県での活動を開始した。なお実働訓練翌日の午前には訓練の振り返りを行っている。

本訓練での目標を「発災後の初動対応、CSCA から３日目までの保健医療福祉全般の被害像の把握」として、東海・北陸ブロック協議会内の各県 DHEAT が富山県保健医療福祉調整本部および被災保健所、市町本部での実働訓練を実施した。

DHEAT の初動対応、CSCA（DHEAT 派遣調整システム入力を含む）と、行政の二層または三層構造での支援体制、具体的には避難所等の被災者の把握（災害時保健医療福祉活動情報システム-D24H-の活用を含む）等を行い、DHEAT 体制強化の課題を検討した。

都道府県保健医療福祉調整本部内での、被災地に派遣される DHEAT 全体の司令塔となる「DHEAT 都道府県調整本部（仮称）」の設置の必要性や「統括 DHEAT」の役割、「都道府県保健医療福祉調整本部や地域保健医療福祉調整本部」等での「DHEAT 先遣隊」の活動の在り方については表のようにまとめることができるが、DHEAT と「保健師チーム」との連携を念頭に置きながら、今後も引き続き検討が必要である。

被災都道府県が保健医療福祉活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、被災地の保健医療福祉ニーズの把握や、保健医療福祉活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を本部長に対して行う「統括 DHEAT」が、現地に派遣される DHEAT 全体の司令塔として、その要請や取りまとめを行うロジスティックとしての実務を担っていくことは、特に大規模災害においては困難であると同時に適切な役割分担でない。

都道府県保健医療福祉調整本部に入った DHEAT の支援活動としては、「統括 DHEAT」の支援と、保健所や市町に派遣される DHEAT 全体のロジスティックとなる「DHEAT 都道府県調整本部」での活動に分けて役割を考える必要がある。

今回の急性期の大規模災害を想定した訓練では DMAT が医療・福祉（急性期の施設からの避難等）を、DHEAT が保健・福祉、つまり保健所等とともに避難所や在宅等の被災者の公衆衛生に関わる支援を中心となって担っていくこととした。

都道府県保健医療福祉調整本部における「DHEAT 都道府県調整本部」は「保健師チーム」の調整担当と厚生労働省 DHEAT 事務局と連携しながら保健所や市町村に派遣される DHEAT の班数や保健師チーム数、派遣期間等を調整していくとともに、派遣される DHEAT 全体のロジスティックとしての役割を果たしながら、派遣された DHEAT や保健所等を通じて保健・福祉のニーズ、公衆衛生に関わる情報を得ていくことになる。

本実働訓練では「DHEAT 都道府県調整本部」と都道府県保健医療福祉調整本部の「保健師チーム」の調整担当、DHEAT 事務局との連携の必要性から「富山県保健医療福祉調整本部」でのそれぞれの座席位置を図のように配置している。

発災早期から保健医療福祉調整本部等で指揮調整の組織体制の強化を図っていくためには近隣県である地方ブロック DHEAT 協議会からの優先的な「DHEAT 先遣隊」の派遣が有効であり、定期的な訓練を通じて班員間での「顔の見える関係」を築いておくことが DHEAT 全体の組織体制強化にもつながっていくと考えられた。

大林 航 先生

佐賀県唐津保健福祉事務所　保健監（保健所長）※令和7年2月当時
伊万里保健福祉事務所　保健監（保健所長）
健康福祉部医務課・医療人材政策室　技術監

「**佐賀で取り組む新たな感染症人材育成事業について**」を
テーマに情報共有をいただきました。

佐賀県IHEAT事務局の設立

新型コロナウイルス感染症の対応を経て、保健所、医療機関及び社会福祉施設等における感染症対策にかかる人材不足が浮き彫りに

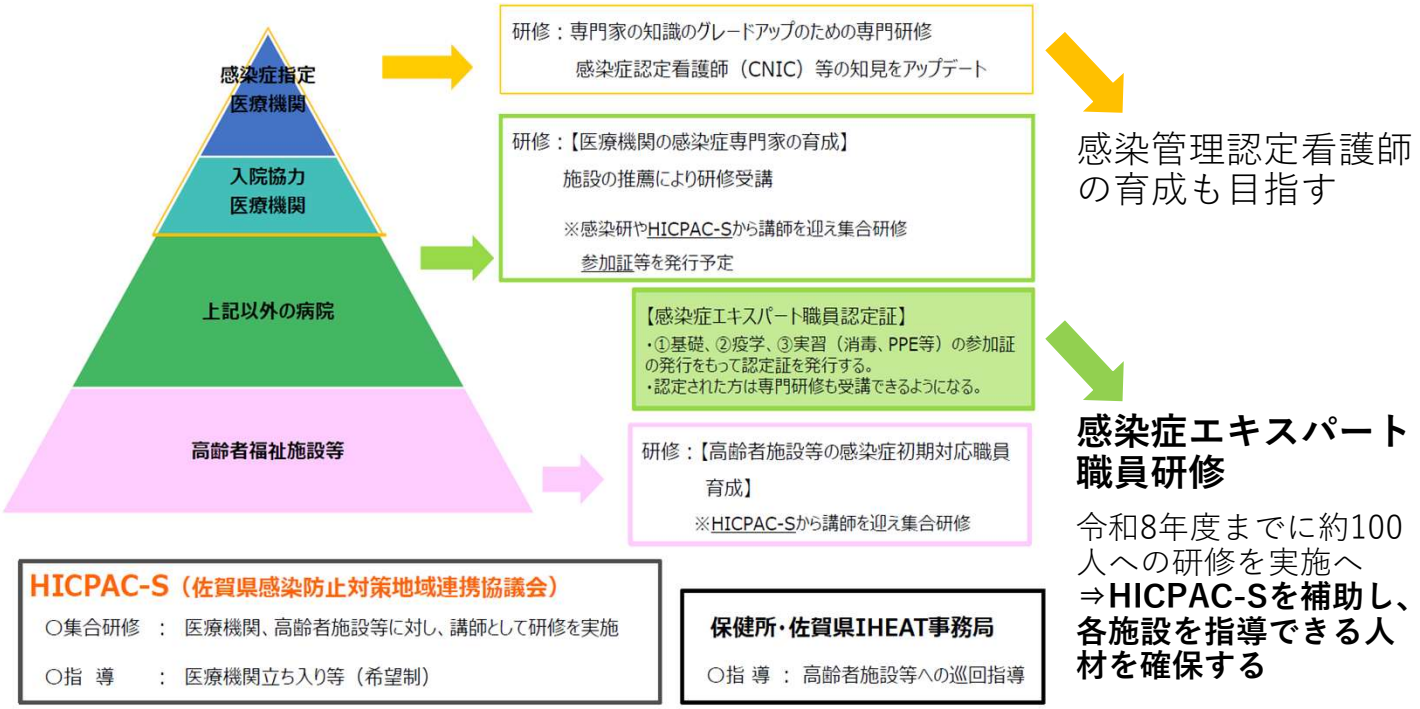
⇩

令和5年に**佐賀県IHEAT事務局**を設立
保健所、医療機関及び社会福祉施設などの職員を対象とした各種研修の実施や研修費用等を補助

⇩

次のパンデミックに備え、佐賀県全体の感染症対応能力の底上げを目指す

佐賀県感染症対応力強化事業（令和5～8年度）



感染管理認定看護師の育成も目指す

感染症エキスパート職員研修

令和8年度までに約100人への研修を実施へ
⇒HICPAC-Sを補助し、各施設を指導できる人材を確保する

佐賀県IHEAT事務局森屋局長
より提供（一部改変）

令和6年度の
取り組み

感染症エキスパート職員研修

（1）目的
感染症に関する基礎的な知識・技術を習得し、施設内の感染対策のリーダーとなる職員を育成することを目的とする。

（2）目標
①感染症・感染対策に関する基礎的な知識と技術を習得できる。
②自施設内の感染対策のリーダーとして実践的な指導ができる。
③自施設の感染対策向上のために、地域の感染管理認定看護師等と連携できる。

（3）対象者
県内の病院に勤務する臨床経験5年以上の看護職で、研修修了後に自施設及び部署内における感染対策の役割を担う者であり、下記の要件をすべて満たす者。
①病院長等からの推薦者
②研修全日程に参加可能な者
③研修後のフォローアップ研修等に参加可能な者

日時	8:40	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
1日目 11月13日 （水）	受付	OR 開講式	感染管理総論 （1時間） CNIC		標準予防策・経路別予防策 （2時間） CNIC				昼食		医療関連感染防止 （1時間30分） CNIC			職業感染防止 （1時間） CNIC		医療関連感染に係る関係法規 （1時間） 佐賀県IHEAT事務局員		
2日目 11月14日 （木）	受付	診療報酬について （30分） CNIC	洗浄・消毒・滅菌 （1時間） CNIC		抗菌薬適正使用①感染診療の考え方 （30分） CNIC	抗菌薬適正使用 ②抗菌薬について （1時間） CNIC		昼食		微生物検査と薬剤耐性菌 （1時間） CNIC	感染管理における組織の役割 （1時間） CNIC			ファシリティマネジメント （1時間） CNIC		感染症に関する法律等について （1時間） 佐賀県IHEAT事務局員		
3日目 11月15日 （金）	受付	アウトブレイク調査に必要な疫学の知識 （1時間） CNIC	GW 「自施設における感染管理上の課題」 （2時間） CNIC					昼食		GW 「自施設における感染管理上の課題」 （2時間30分） CNIC				発表・総評 （1時間）		閉講式 修了証授与		

保健所の技術継承のための研修会

職員の異動などで、習得した検体採取手技や、PPE着脱のスキルの継承が難しくなることが懸念された。そのため、保健所職員を対象とした研修会を実施した。

（1）検体採取（鼻咽頭ぬぐい液）PPE着脱研修会
・新型コロナウイルス感染症の流行時、各保健所で実施していた施設集団採取等のノウハウを継承
・各保健所の保健師、臨床検査技師等、計29名が参加

（2）腸管感染症疫学調査・検便検査手技研修会
・保健所等の感染症担当職員に対して腸管感染症（三類感染症）に関する知識および保育所等の施設における集団検体採取（検便）のノウハウを次世代に継承
・各保健所の保健師、臨床検査技師等、計29名が参加

佐賀県IHEAT事務局森屋局長
より提供（一部改変）

小倉 憲一 先生

富山県厚生部医務課 厚生部参事・医務課長

「令和6年能登半島地震を踏まえた富山県での東海・北陸ブロックDHEAT協議会実働訓練について～保健医療福祉調整本部とDHEAT先遣隊の役割～」をテーマに情報共有をいただきました。

令和6年度東海北陸ブロックDHEAT実働訓練

令和6年能登半島地震での富山県保健医療福祉調整本部の設置と富山県DHEATの派遣経験を踏まえて、富山県内での地震発生を想定した令和6年度東海・北陸ブロックDHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）協議会実働訓練を実施した。

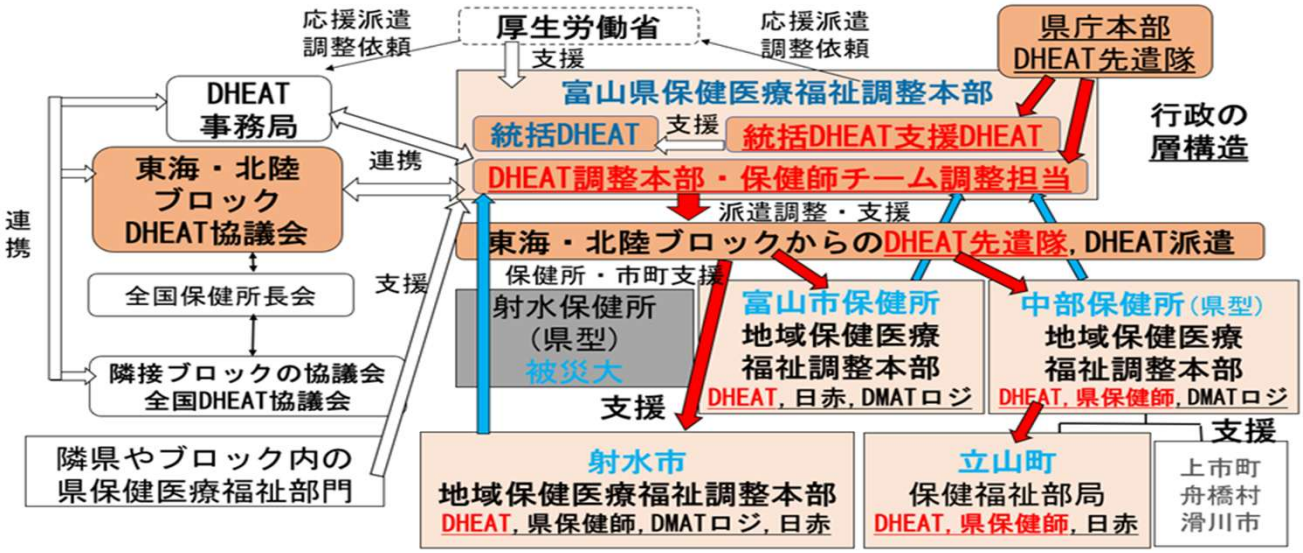
シナリオ

令和6年10月21日（月）午前8時30分、呉羽山断層地震発生M7.2
- 射水市⇒震度6強
- 富山市、立山町⇒震度5強
- 上市町、舟橋村、滑川市⇒震度5弱
- その他の富山県内⇒震度4

訓練内容

発災後、富山県保健医療福祉調整本部を設置し、「DHEAT先遣隊」の活動として県内DHEATは発災2日目から、富山県外の東海・北陸ブロック協議会内からの「DHEAT先遣隊」は発災3日目から被災県での活動を開始した。

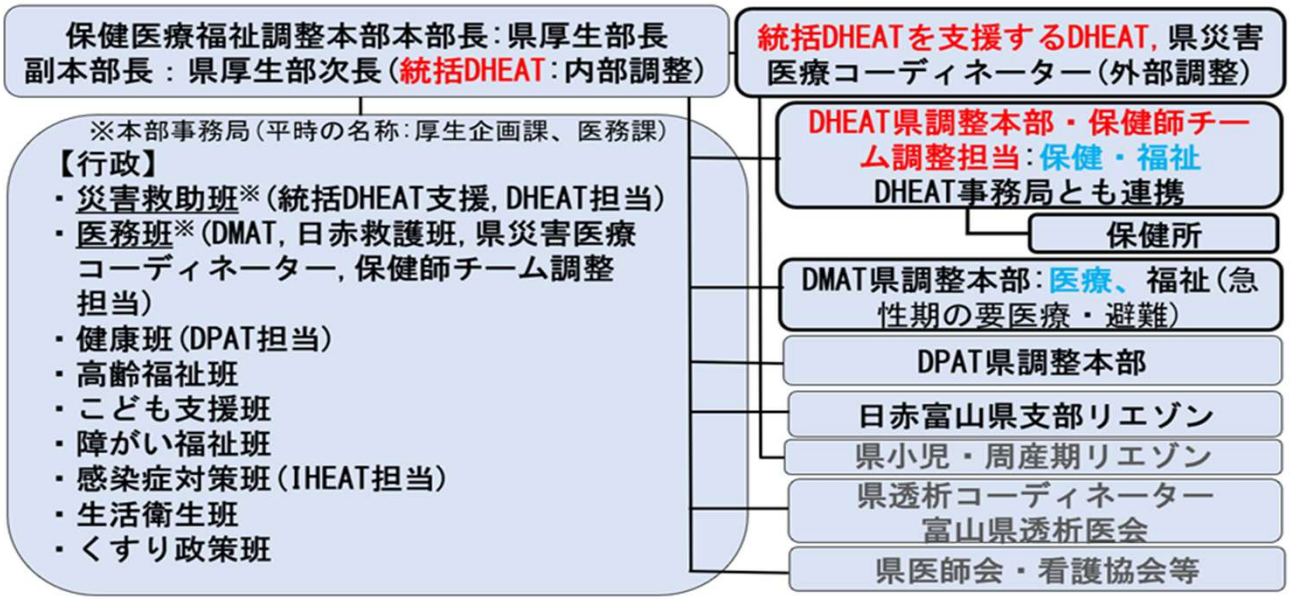
派遣体制



⇩

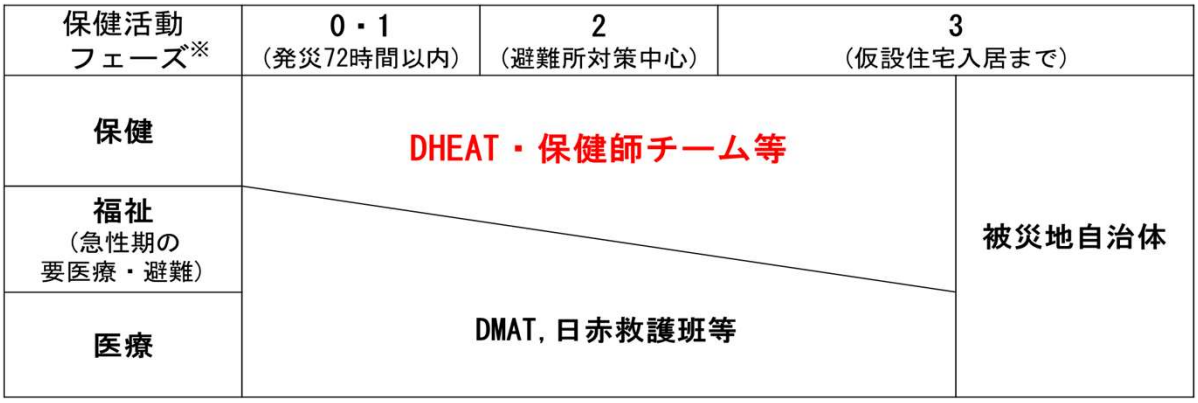
DHEATの初動対応、CSCA(DHEAT派遣調整システム入力を含む)と、行政の二層または三層構造での支援体制、具体的には避難所等の被災者の把握(災害時保健医療福祉活動情報システム-D24H-の活用を含む)等を行い、DHEAT体制強化の課題を検討した。

富山県保健医療福祉調整本部組織図



都道府県保健医療福祉調整本部に入ったDHEATの支援活動としては、「統括DHEAT」の支援と、保健所や市町に派遣されるDHEAT全体のロジスティックとなる「DHEAT都道府県調整本部」での活動に分けて役割を考える必要がある。

今後のDHEATとDMAT等との役割分担



※出典：大規模災害における保健師の活動マニュアル（全国保健師長会、平成25年7月）

今回の急性期の大規模災害を想定した訓練では、DMATが医療・福祉（急性期の施設からの避難等）を、DHEATが保健・福祉、つまり保健所等とともに避難所や在宅等の被災者の公衆衛生に関わる支援を中心となって担っていくこととした。

◎まとめ

発災早期から保健医療福祉調整本部等で指揮調整の組織体制の強化を図っていくためには、近隣県である地方ブロックDHEAT協議会からの優先的な「DHEAT先遣隊」の派遣が有効であり、定期的な訓練を通じて班員間での「顔の見える関係」を築いておくことがDHEAT全体の組織体制強化にもつながっていくと考えられた。

公衆衛生だよりNo.6をお読みいただきありがとうございます。
ご意見・ご感想がありましたら公衆衛生委員会 事務局までお寄せください。
【公衆衛生委員会 事務局】TEL:03-5212-9152　e-mail:koushu-eisei-jimukyoku@jadecom.info